



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

'95. 9. 21 No. 4262

# あつまれ！ 大定期大会

一〇月一日〜二日、動労千葉  
第二回定期大会が、笠森保養  
センターにおいて開催される。

「JR体制」を根底から痛撃す  
る「二月ダイ改」阻止闘争！

今定期大会は、何よりも、勝  
浦運転区廃止―鴨川運転区新設  
攻撃を粉碎し、東中野事故や幾  
多の事故の反省もなく、またも  
仕掛けられてきた外房線のスピ  
ードアップを断じて許さない、  
「二月ダイ改」阻止闘争の方  
針を確立することにある。

勝浦運転区廃止―鴨川運転区  
新設とは、どの面から見ても不  
当労働行為そのものだ。断じて  
許してはならない。その経過の  
中にこそ、あますところなき不  
当な攻撃の実態が浮き彫りにな  
っている。

われわれは、脈々と受け継が  
れてきた国鉄労働運動の魂を継  
承し、その運動の支柱―精神で  
ある、反合・運転保安確立の闘  
いを、満を持して大きく広く展  
開しなければならない！

形成される「JR体制」包圍網

闘いの機は熟している。

「全国にはばたこう」路線の  
県内での結実を果たした、勝浦  
市議選の勝利は、地域の声を代  
弁する水野議員を登場させ、勝  
浦運転区存続署名においては、  
勝浦市民の約七割、一八九四四  
名の署名を実現させた。

ここにJR本隊の闘いと結合  
する、地域において「JR体制」  
を包圍する堅陣が、今やじよ

よに形成されつつあることを如  
実に示した。

そして御宿町議選への中村俊  
六郎君の出馬によって、動労千  
葉の運動が広く確かな流れとし  
て浸透しつつあることを明確に  
せんとしている。

一片の整合性なき、勝浦運転  
区廃止攻撃を断じて許すな！

「JR体制」を、木っ端微塵  
に実力闘争の対置をもって粉碎  
しようではないか！同時に、同  
じ根を持つ、店舗廃止―原職奪  
還の闘いに勝利しようではない  
か！そして「二月ダイ改」の  
毒持てる意図を喝破し、貨物合  
理化を粉碎しよう！

串刺しにされる「JR体制」

昨年の電撃的な、「二〇二億  
スト損賠」訴訟の取り下げは、  
「分割・民営化一〇年の見直し」  
、九七年の分・民十年目にむか  
って「七分割体制」そのものの  
見直し、そして今なお「JR体  
制」を続ける東日本の体制を串  
刺しにするものとしてある。

そして支配体制そのものが、  
大失業時代を前にして、清算事  
業団闘争がそのまま存在し続け  
ることへの恐怖がここにある。

ゆえの、この質を変えた攻撃  
は、単に、国鉄だけでない、三  
里塚、狭山への同質、同時にか  
けられた攻撃なのだ。この事の  
本質をわれわれは決して見誤つ  
てはならない。

大失業時代に抗する労働運動を

被災地労働者の闘いが示す曙光

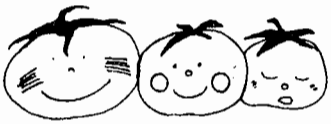
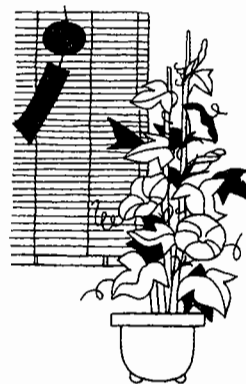
「大失業時代」が現実のもの  
として、ヒシヒシと襲いかかる  
うとしている。「阪神大震災」  
を期して開始された、解雇―首  
切りの嵐は、全労働者を不安定  
雇用にする攻撃の先鞭をつける  
ものとしてある。

ゆえに一昨年の大会で提唱し  
た、「全国にはばたこう」運動  
の目指す、労働運動の新たな潮  
流路線―大失業時代に抗する労  
働運動の真価が今、最も問われ  
るものとなった。

われわれは、八・一五集会の  
成功―九・一阪神大震災被災地  
労働者を支援する集いと、確か  
な歩を進めてきたこの闘いを、  
さらに前に進めよう！現状を打  
破し、本当に物質力を持ったも  
のとするために、一一・五全国  
労働者集会を、一大飛躍をかけ

たものとして取り締もうではな  
いか！

全組合員は、一〇月一〜二日、  
第二回定期大会に総結集しよ  
う！闘う方針を打ち建て、総反  
撃の闘いに打って出よう！



「津田沼支配転差別事件」地労委第二回審問

日時 九月二十七日(水) 十時から

場所 千葉県地方労働委員会

集合 県庁第二庁舎(企業庁)三階

労働者側控室 九時四十分